

デーリー東北

2024年(令和6年)10月5日(土曜日) (4)

特定技能1号へ
後期プログラム

八工大、留学生11人受講

八戸工業大(坂本禎智学長)は4日、国内企業で就労できる外国人技術者を育成する、産学官連携の取り組み「外国人特定技能エンジニアプログラム」の後期開講式を同大で行った。来日したミャンマー人の留学生11人(男性4人、女性7人)が来年3月までの半年間、最長5年間働ける在留資格「特定技能1号」(工業製品製造業分野)の取得を目指す。

本年度から始動したプログラムは、企業の人手不足の解消、ものづくり産業へ



工業製品製造業分野の特定技能1号の取得を目指すミャンマー人留学生＝4日、八戸市

の貢献、地域定住が狙い。前期は自動車整備と建設、後期は工業製品製造業の全3コースを設けた。修了後は国内企業で働いてもらい、永住可能な「特定技能2号」の取得につなげる。

同大、外国人の登録支援機関のTSB・ケア・アカデミー(東京)、青森県内外の企業、八戸市が連携。同大は専門教育を提供し、学費は内定先の企業が立て替えて、3年間就業すれば免除となる仕組み。市は市営住宅を安価に貸し出す。

工業製品製造業のコースでは、機械加工や電子機器の組み立てなどを学ぶ。一部の留学生には既に企業から仮内定が出ている。

開講式で坂本学長は「産業を支える人材として、成長し、活躍してほしい」とあいさつ。留学生を代表し、イピユピユソーさん(31)は「日本の技術を学びたい」と抱負を述べた。(工藤洋平)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。